

H P V ワクチンに関する最新情報【練馬区医師会】

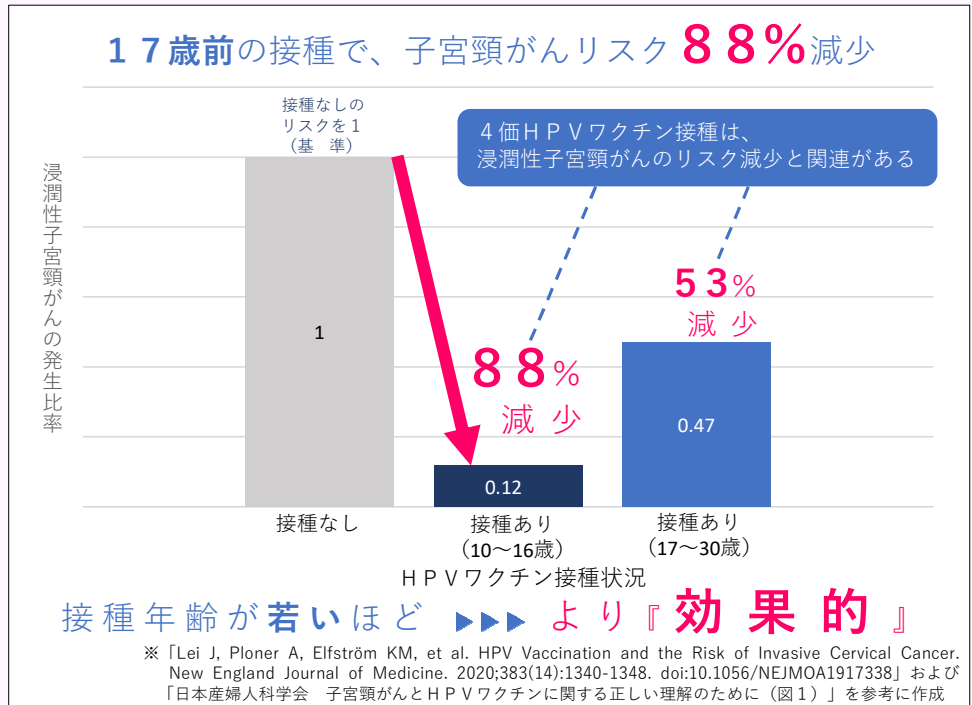
～大切なお子さまを、防げる病気から守りたいから。今、知っておきたいワクチンのこと～

その①

早期（12歳）接種を推奨する理由

- ① 接種年齢が若いほど、
浸潤性子宮頸がんの発生率が著しく低下します
- ② 接種開始が15歳未満の場合、
2回接種で完了します

右図はスウェーデンの研究により、ワクチン接種が浸潤性子宮頸がんのリスクが減少することを示しています。同様に、デンマークでは16歳以下の接種で86%、英国では12～13歳までの接種で87%減少した結果が示されています。HPVワクチンを接種した年齢が若いほど、浸潤性子宮頸がんの発生率の低下が著しいことが示され、大幅にリスクが減少します。



その②

有効性が確認されています！

接種後に報告された痛みやしびれといった多様な症状は、ワクチン接種者と非接種者の間で発症率に有意な差は認められませんでした（名古屋スタディ2018）。この結果からワクチンとの因果関係は否定され、「ワクチン接種の有効性が副反応のリスクを上回る」と結論付けられました。

その③

接種後に副反応があっても 診察体制が確保されています！

万が一、接種後に副反応があった場合、かかりつけ医または接種医療機関を經由して厚生労働省指定の医療機関（都内6か所）で診察を受けることができる体制が確保されています。練馬区の場合、最寄の医療機関は「日本大学医学部附属板橋病院 痛みセンター」となっています。

～早めの接種が、明日の安心につながります。専門家が認めた、確かな有効性と安全性～

【参考文献】

その1：日本産婦人科学会：子宮頸がんとHPVワクチンに関する正しい理解のために

その2：Suzuki,S, Hosono.A：No association between HPV vaccine and reported post-vaccination symptoms in Japanese young women: Results of the Nagoya study

その3：厚生労働省HP：ヒトパピローマウイルス感染症の予防接種後に生じた症状の診察に係る協力医療機関について